

英語教育のあり方をみんなで考えよう！

～ 子どもたちがより幸せに学べるように ～

新英語教育研究会主催



日時:2024年6月2日(日)

午前 10 時～午後 4 時(昼休みあり)

本会場:立正大学 品川キャンパス 9号館 B11 教室

JR 線 大崎駅、五反田駅から徒歩 5 分

東北会場:宮城県東松島市矢本東市民センター

オンライン:Zoom でのオンライン参加もできます。

参加費を振り込まれた方は、後日、録画視聴も可能です。

* 会場参加者も事前登録をお願いします。

今年全国大会を行う東松島市の海岸(宮城県)

日本の教育と英語教育をめぐる状況は深刻さを増しています。小中高の不登校数は 30 万人に迫り過去最高に。現行学習指導要領による小学校での英語の早期化・教科化、単語数 2 倍をはじめとする中学校英語の超高度化、高校でもより高度化した授業が行われる中、「学力格差が拡大し、英語が苦手な子どもたちが増えている」といういくつかの報告があります。

教師の多忙化は限界を超えるまでになり、教員志望者の減少、学校での教員不足も深刻です。

子どもも教師も喜びをもって行える英語授業やそのための英語教育政策はどうあったらよいのでしょうか？小中高でのゆたかな授業実践と久保野雅史先生の講演から学び、英語授業と政策改革の方法を一緒に考えましょう。

【第 I 部 10:00～12:30 実践報告:小中高 3 人の発表】

小学校 誰も教えてくれない小学校外国語の書く活動

伊藤正浩さん(福島・本宮市立本宮まゆみ小学校 英語専科教員)

中学校 苦手な生徒が多い長文読解を Readers Theatre 手法で、楽しく深める

尾張至伸さん(青森・中学校)

高校 自ら学ぶ生徒を育てるには～生徒たちの姿から～

西田陽子さん(京都・府立洛東高等学校)

【第 II 部 13:30～15:50 講演 / 交流】

久保野雅史さん(神奈川大学教授・英語授業研究会会長)

『高校入試に英語スピーキングテスト?』『創造的!英語の「3 観点評価」』他著書多数

タイトル「学校英語教育が破綻しかけているのはなぜか？」

～1970 年代からの英語教育行政を振り返りながら～

申し込み:下のウェブページまたは右の二次元バーコード

から事前登録をお願いします(直前まで可)。

<https://2024pre.shin-eiken.com/>

登録後、ミーティング参加と送金に関する情報の確認メールが届きます。



問合せ先: 2024pre@shin-eiken.com

参加費: 教員・一般 1000円 学生 無料

主催:新英語教育研究会 後援:小学校テーマ別英語教育研究会(ESTEEM)

* 8月3日・4日に、新英研の全国大会(宮城県で実施)が行われ、国際ジャーナリストの堤 未果さんによる記念講演、小中高の授業実践報告が行われる分科会等が催されます。詳細は新英研ホームページ <https://www.shin-eiken.com/> をご覧ください。

講演とレポートの概要です。楽しみにしてご参加ください。

講演概要 学校英語教育が破綻しかけているのはなぜか

久保野 雅史さん 【神奈川大学教授・英語授業研究学会会長】

極端に難化した教科書で授業についていけない中学生が悲鳴を上げ、小学校でも英語学習への意欲が二極化するなど、学校英語教育は破綻の危機に瀕しています。この根源は「外国語教育の抜本的強化のイメージ」で文部科学省が設定した目標が非現実的なほど高すぎるからです。楽観的で右肩上がりの英語教育像がどうして描かれたのか？1970年代以降の学習指導要領の変遷や、教育基本法改定で新設された「教育振興基本計画」の問題点に触れながら考えていきます。

レポート概要

小学校実践 伊藤 正浩さん 【福島・本宮市立本宮まゆみ小学校】

誰も教えてくれない小学校外国語の書く活動のアイデア

英語が嫌いだという中学生、小学生が多くなっている。その原因は、小学校で外国語が教科化になり、さらに中学校の教科書が難しくなったからだと思う。小学校では英語に「慣れ親しむ」と言いつつ、英語を書く活動についてほとんど何も具体的な情報も実践報告もない。「どうしたらいいの？」と悩む先生に一つのアイデアを！

中学校実践 尾張 至伸さん 【青森・中学校】

苦手な生徒が多い長文読解を Readers Theatre 手法で楽しく深める

教科書の長文読解は、紙面上の文字を目で追っていくが、誰がなぜこの言葉をここで言っているのか、どのような意図をもって言っているのか、などと考えはしない。しかし、これを Readers Theatre の手法を用いることで、その場面・状況・背景を考えながら、仲間と主体的に読解を深めていくことができる。その実践例を紹介する。

高校実践 西田陽子 【京都・府立洛東高等学校】

自ら学ぶ生徒を育てるには～生徒たちの姿から

英語が苦手、嫌いだという高校生と長く接してきました。そんな彼らも「わかる」という実感が持てる時、深い内容を持つ教材に出会うとき、英語を通して自己表現する楽しさに目覚めたとき、自ら学び始めるように思います。生徒たちの姿とともに、どんな教材でどんな授業をしているのかを紹介したいと思います。